

令和四年度 奈良県教育長賞

税金に守られる私たち

西大和学園高等学校 一年 森本 里彩

夏休みに入り、税の作文を書くため私が住む奈良県の税について調べた。奈良県の税の使われ方で私が特に素敵だなと感じたものは「森林環境税」だ。豊かな森林を貴重な県民全体の環境資源として将来に引き継ぐためのさまざまな取組みに役立てられており、個人県民税や法人県民税の均等割に上乗せされ納めるものだ。ご存知の通り奈良県の四分の三以上が森林であり、中でも吉野の森林は国内有数の優良な木材の生産地である。環境保全が地球レベルでの課題となった今、森林を守り未来に引き継ごうという取組みは素晴らしいと思う。

奈良県の税についてもう一つわかったことがある。奈良県の地方消費税収は非常に少ないのである。地方消費税とは県内でお買い物や食事をした際にかかる税金のことである。奈良県は大阪へのアクセスがよいこともあり、県外でお買い物やお食事を済ませる人も多いのだろう。確かに、中学生の頃は遊ぶ場所が制限されていたため奈良県内でのお買い物が多かった私自身も、高校生になってからは友達と遊ぶ場所は大阪市内であることが多い。

地方税収が少ないと困ること、それは私達の生活をより良くするための財源が小さくなってしまうことである。たとえば、先ほど述べた森林環境税が少なくなってしまうと、大切な森林が保護できなくなってしまう。また奈良には貴重な文化財があり、それを守るためにも税金が使われている。奈良時代から守られつづけたお寺や大仏が壊れてしまうところを私は見たくない。近隣の大都市でお買い物をするという何気ない些細な行動を続けることによって、吉野の森林、東大寺の大仏だけでなく私達の日常を続けることすら危ぶまれるのだと感じた。

これからの税の使い方について、私に考えがある。私が他府県に出かけていたように、他府県から奈良に来てもらえる魅力を作りたいと思う。近隣府県からは日常のお買い物や小旅行の目的、国内外からは観光目的での宿泊を伴う旅行など、県内各地の豊かな自然や、文化財、風習などを活かして、たくさんの人々が訪れる魅力ある街づくりができれば、地域の人々の暮らしは守られ、地域の創生にもつながってゆくのだと思う。

税金はたくさんのもを守ってくれている。私が大切であると思うものをいちばんに守ってくれるとは限らないが、たくさんの人々の生活苦を和らげ、人々にとって大切なものを守るために税金はあるのだと思う。